

九州の下水道等ビジョンに関する提言書

1. 九州ブロックのめざす将来像について

九州は豊かな自然に恵まれています。人々の毎日の暮らしがもたらす様々な影響は、この豊かな自然を少しずつ損なわせつつあります。また、九州は風水害を非常に受けやすい土地柄であり、土地利用の変化に伴う浸透能力の減少や、増加する集中豪雨により浸水の危険性がさらに増えています。

そのため、九州ブロックにおける下水道等の汚水処理と流出抑制も考慮した雨水対策を促進し、本来の水循環を取り戻すことにより、「九州の豊かな自然環境を保全・再生する」とともに、「住民が安心して生活できる快適なまちづくり」の実現に貢献できるよう、以下の将来像を提言いたします。

九州の豊かな自然環境と生き物の命の源である水を保全・再生していく環境の保全
浸水対策を実施し、安全で安心できるまちをつくる安全で安心な暮らし
衛生的で快適な生活環境の実現、良好な水域環境の維持・回復を進める快適な暮らし

2. 重点的に取り組む事項について

九州ブロックのめざす将来像の実現に向け、「重点的に取り組む事項」および「主な施策」について、以下のとおり提言いたします。

〔重点的に取り組む事項〕

①行政と住民との協働が可能となる仕組みづくりを行うこと

住民・NPO・事業者・行政が一体となり、水環境保全意識の向上や相互の意見・情報交換が行えるような仕組みづくりに努めること。

ひとり一人の水環境保全意識の向上

- ・水の使い方、接し方を体験的に学び、住民ひとり一人が身近な水辺から海までを見つめ、持続可能な地域づくりの一環として環境の大切さを認識する環境学習の場をつくること。
- ・住民・NPO・事業者・行政がともに『水について語り合える』機会をつくること。
- ・水環境の大切さを認識する情報を、解りやすく積極的に発信していくこと。

整備を進めるにあたっての積極的な情報公開と住民意見の反映

- ・整備手法の適切な選択などにより、汚水・雨水対策が促進されるよう、わかりやすい下水道等整備の効果や必要性に関する情報の提供・開示に努めること。
- ・情報の発信・提供にあわせ整備手法の選択や進め方などについて、住民と意見交換を行う機会をつくること。

②効率的な施設整備を行うこと

施設整備による普及促進、施設を正常に機能させるための維持管理や施設の改築を効率的に行うため、以下の事項について重点的な取り組みに努めること。

技術革新に伴う新技术を積極的に取り入れるとともに、廉価な処理方式の導入などについても柔軟な技術的判断等を付与し、コスト縮減を実現すること。

国・県・市町村の果たすべき役割分担のもと他事業との連携による効果の早期発現に努めること。

広い視野で「費用負担がいかにあるべきか」を考え、負担ルールの見直しにも配慮すること。

〔主な施策〕

①汚水処理人口普及率の向上

九州ブロックにおいては、人口5万人未満の市町村における普及の遅れが顕著である。このような中小市町村の汚水処理を促進するには、地域毎の多様性を的確に把握し、地域の特性を考慮した汚水処理の整備手法が選択できるよう、費用や効果について具体的に示唆する等により、普及を推進する必要がある。

②高度処理の推進

通常の下水处理では水利用の適合性の達成が困難な水域、特に閉鎖性の高い水域においては、その効果を判断し必要に応じて高度処理を推進する必要がある。

③合流式下水道の改善

合流式下水道を採用している地域において、未処理水の排出問題、雨水のファーストフラッシュによる水質汚濁問題を解決するため合流式下水道改善対策を推進する必要がある。

④循環型社会形成への対応

施設の建設や管理などでの省資源・省エネルギーに努め、施設からのCO₂発生を抑えるとともに、下水道が保有する資源（下水処理水や下水汚泥など）を有効活用し環境への負荷を低減させる『持続型』のシステムを構築する必要がある。

⑤浸水対策の促進

浸水対策の実施にあたっては、関係者間の連携を強化し、雨水排除のみでなく貯留や浸透による流出抑制を推進し、流域対策として多角的な方策を検討していく必要がある。

⑥良好な水域環境の維持・回復

衛生的で快適な生活環境の実現と“うるおい”や“やすらぎ”を感じられる良好な水域（水辺）環境の維持・回復のため、汚水処理施設の普及、処理水排水地点の適切な選択や雨水浸透の促進のほか、処理水の再利用等を推進する必要がある。

3. 取り組みの効果を表現する指標について

九州ブロックのめざす将来像の実現度（事業の効果）を把握するための指標、および設定にあたり留意すべき事項を、以下のとおり提言いたします。

- ・これからも保全していきたい生態系（生物の生息地数や個体数）を地域毎に確認できる指標（例：めだか、サンショウウオ、カブトガニ、ホタル、天然鮎、ヤマメなど）
- ・下水道による都市浸水（内水被害）対策の達成率を示す指標
- ・水域環境に対する満足度をアンケート調査などで確認できる指標
- ・下水道に関する行政と住民との協働の度合いを示す指標

〔留意すべき事項〕

- ・全国一律の指標ではなく、個々の地域毎に設定し地域特性を反映させうる指標が好ましい。
- ・地域住民が納得し実感でき、さらに住民が知りたいことを示す指標が好ましい。
- ・汚水処理システムを選択した首長が、説明責任を果たすのに役立つ指標が好ましい。

平成16年3月30日
九州の下水道等の整備を考える懇談会

飯盛和代
楠田哲也
小林華弥子
杉尾哲
富工妙子
原育美
平田登基男
森山克美
(五十音順)